

# オガール!

ものづくり産業広報誌

## ACE

2017.3  
Vol. 12



**特集** 仕事図鑑  
ものづくりにかける  
**ものづくりで  
輝く女性**

技能士を育てる。  
有限会社只見工業所

技の肖像  
婦人子供服注文仕立職  
小島 恭子さん

こんな人材を育てている  
白石高等技術専門学校  
石巻高等技術専門学校

あすを拓く  
株式会社セッションブル  
梶屋 陽介さん

ものづくり産業広報誌 オガール! ACE Vol.12 発行:宮城県(産業人材対策課) 編集:ハルウコミュニケーションズ株式会社

厚生労働省委託 若年技能者人材育成支援等事業

広告

若年技能者の人材育成・技能継承をお考えの事業主・教育機関等の皆様へ

学びの環境づくりから未来の人材育成へ!

## ものづくりマイスター制度

### ものづくりマイスターの指導を受けた高校生が活躍

昨年11月19日に開催された、平成28年度高校生ものづくりコンテスト宮城県大会木材加工部門で、マイスターの指導を受けた高校生が優勝し、東北大会への切符を手に入れました。



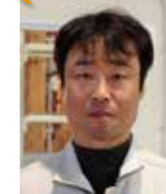
プロの技をわかりやすく指導して頂きました。  
仙台市立仙台工業高等学校  
定時制課程 建築土木科2年  
成田 康汰朗くん

県大会の課題に向けて、松浦マイスターから「のみ」や「のこぎり」などの道具の扱い方のコツを教えてくださいました。プロの大工の説明はとても分かりやすく、今回の成績につながったと大変感謝しています。東北大会に向けもっと技術を学んで全国大会出場を目指します。



マイスターの声

株式会社岡崎工務店  
代表取締役 岡崎 松郎先生



白石工業高校の生徒を指導しました。コンテストでは手工具を使った課題が出題されるので、手工具の基本的な扱いから指導しました。最高の状態で道具を使わないと、良い技術は身に付きません。そこで、道具の手入れの方法にも時間を使いました。指導を通してメキメキ実力をつけてくれました。

実行委員長の声

仙台市立仙台工業高等学校 校長 西尾 正人先生

コンテストが始まって15年以上が経ち、生徒の知識と技能の向上の両輪が機能してきたと実感しています。更にマイスター制度の活用により、学校が高度な技術者と直接コンタクトできるようになりました。生徒が実践的な技能を学べる機会を得るとともに、教員の技能向上にもつながり感謝しています。



審査委員長の声

浦山建設株式会社 代表取締役 浦山 孟吉先生

学校で練習する時間が限られる中、技術向上に真剣に取り組む高校生の姿をうれしく思っています。プロから直接指導を受けることができる、マイスター制度は貴重な機会です。このチャンスを生かして、様々なことを吸収してほしいと思います。



### 応募は随時受け付けております

【指導内容】 高校生ものづくりコンテストに向けた実技指導  
【指導期間】 1人最大10回まで(1回3時間まで)  
【費用】 マイスターに対する謝金、旅費、材料費【上限2,160円/人(税込)】は、宮城県技能振興コーナーが負担します。  
【指導実績】 旋盤作業部門、木材加工部門

### まずは、宮城県技能振興コーナー

までお問い合わせください。  
TEL.022-727-5380  
FAX.022-727-5381

宮城県技能振興コーナー

次号予告

オガール ACE Vol.13は、2017年6月10日発行予定です。

オガール ACEはウェブサイトでもご覧いただけます



この印刷物は、輸送マイレージ低減によるCO2削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷し、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行=宮城県(産業人材対策課)  
編集=ハルウコミュニケーションズ株式会社  
本冊子は12,000部作成し1部あたりの単価は257円です。

03 特集・仕事図鑑  
ものづくりにかける

## ものづくりで 輝く女性

[CASE.1]

製造  
マルニ食品株式会社  
岩淵 由紀さん

[CASE.2]

金型設計  
明治合成株式会社  
阿部 一美さん

[CASE.3]

製品管理  
株式会社中華高橋水産  
阿部 佳澄さん

[CASE.4]

技術  
株式会社東京ファッション 亘理工場  
小林 紗矢香さん

15 report 技能士を育てる。  
有限会社只見工業所

16 技の肖像  
婦人子供服注文仕立職  
小島 恭子さん

17 こんな人材を育てている  
白石高等技術専門校  
石巻高等技術専門校

19 あすを拓く  
株式会社セッシヨナブル  
梶屋 陽介さん

21 NEWS BOX

官民のバックアップで  
活躍の場が広がっています

働く女性の実情は  
どうなっているんだろう？

社会構造の変化に伴い  
高まる女性の存在感

1980年代、日本の家庭では、夫婦のうち男性が主な働き手となる専業主婦世帯が主流でした。しかし、86年4月に「男女雇用機会均等法」が施行され、女性の社会進出が進むとともに結婚・出産後も働く女性が増えたことで、共働き世帯の割合が増加。2015年のデータでは、共働き世帯が1114万世帯と、専業主婦世帯（687万世帯）を大きく上回っています。

厚生労働省の「平成27年版働く女性の実情」を見てみると、1985年から2005年にかけて働く女性の数は急速に増加し、雇用者全体に占める割合も40パーセントを超えて増え続けています【グラフ1】。

人口減少と少子高齢化を背景に、今後も労働力人口が減少すると見込まれる中、働く女性への期待は更に高まっています。

女性活躍推進法が施行  
働きやすい環境整備を後押し

こうした流れを受けて、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するため、「女性活躍推進法」が2015年9月に施行されました。

この法律では、国や地方公共団体、民間企業などの事業主に対し、採用数や管理職の女性比率、勤続年数男女差などの状況を解析すること、数値目標を盛り込んだ行動計画を策定・公表すること、女性の職業選択に関する情報を公表することを義務付けています。公表された情報により、女性は就職・転職を考える際に、企業の女性社員の待遇や育休・産休制度の内容、ワークライフバランスについての考え方を事前に知ることができます。

このように、女性の仕事と家庭の両立に向けた、法律や社会環境の整備が進められています。

※300人以下の労働者を雇用する事業主に対しては「努力義務」となっています

宮城県内で活躍！  
ものづくり産業で働く女性

宮城労働局の「宮城における女性労働の概況」によると、県内で働く女性の割合も増加傾向にあり、2010年では43.6パーセントとなっています【グラフ2】。

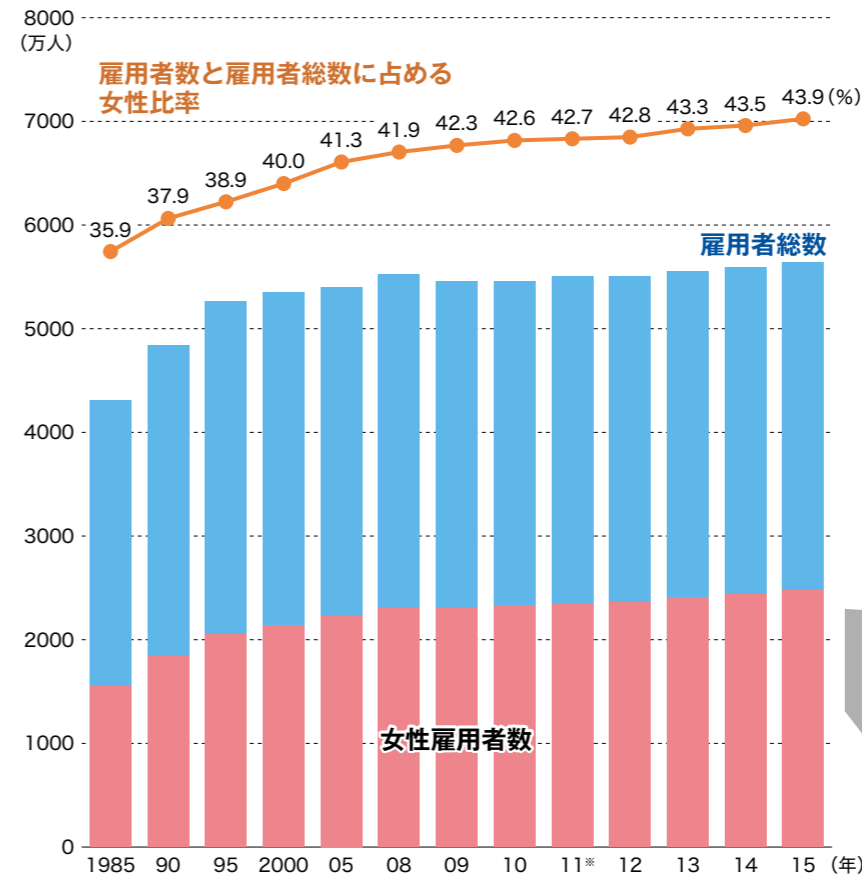
主な産業別で見ると、卸売・小売や飲食・宿泊サービス、医療・福祉分野などで、女性の割合が50パーセント以上を占めています。

また、県内の製造業で働く女性の割合は、38.2%で、全国平均より7パーセント以上も高い割合を示しています。宮城県では製造業をはじめ、多くの職場で女性が輝いていることがうかがえます。

今号では、県内のものづくり産業で活躍する女性と、その仕事を紹介します。

【グラフ1】  
雇用者数と雇用者総数に占める  
女性比率の推移

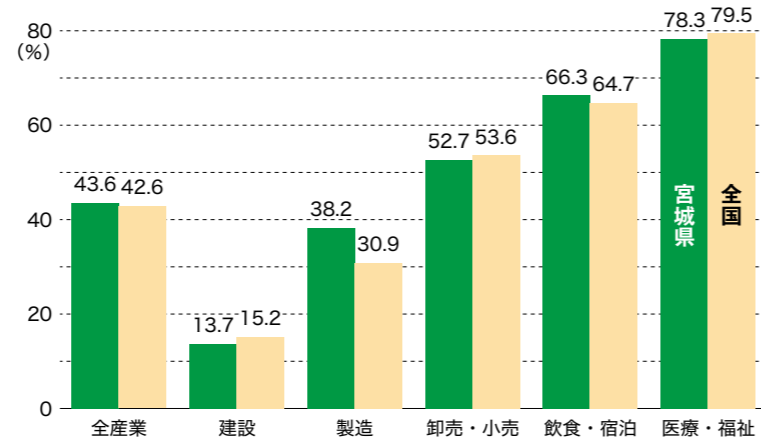
参考：厚生労働省「平成27年版働く女性の実情」



※2011年の数値は、補完推計値(参考値)

【グラフ2】  
宮城県の産業別雇用者に占める  
女性比率(2010年)

参考：宮城労働局「宮城における女性労働の概況」



## 企業情報

### マルニ食品株式会社

所在地 登米市南方町鴻ノ木 123-1  
TEL 0220-58-5502  
FAX 0220-29-6660  
http://www.02-food.com/



代表取締役社長 二階堂 玲子

資本金 5,800万円

設立 1960年4月

従業員数 205人(2017年2月現在)

事業内容 生麺・調理麺・手延べ麺・乾麺の製造、惣菜の製造、その他食品の販売

企業理念 北の風土から「人材づくりを重視する」「感動づくりを創造する」「地域づくりを目指す」

百二十余年の歴史を感じて  
一本の麺と真剣に向き合う



つり下げられた麺の間に竹箸を入れ整える岩淵由紀さん

## すべての作業を一貫生産

### 職人の勤とチームワークが光る現場

同社の手延べ麺は、乾麺1種類と、半生麺3種類があり、原料の仕込みから丸2日かけて作られている。生地づくりや麺の成形、熟成、乾燥、包装、箱詰めに至るまで、職人がすべての作業を行う。

原料に使う小麦粉の種類、室内の微妙な気温や湿度の違いが、生地の弾力や延び具合などに影響を与える。そのため、小麦粉に加える食塩水の量やこねる時間、麺を延ばす際の力加減など、仕込みのあらゆる場

面で職人の技が求められる。

「適切な条件で麺を作らないと、乾燥させた時に麺が割れたり、ざらざらとした食感になったりして、商品にはなりません。職人の経験によって、麺の弾力とつりとした舌触りが生み出されています」と岩淵さんは話した。

手延べ麺は贈答品として人気が高く、お中元やお歳暮のシーズン前には3万食もの注文が届く。そのため、あらかじめ在庫を確保しておく必要があるが、半生麺の賞味期限は、約4カ月と乾麺に比べて短く、長期保管ができない。その上、ほとんどの工程を手づくりしていることもあり、1日の生産量は最大で200食だという。

「忙しい時期は、職人のチームワークで効率よく仕事を進めています。一番若手の私が足を引っ張らないように毎日頑張っています」と話す岩淵さんは、職人になって間もなく2年を迎えようとしていた。

## 電光石火の巻きに圧倒 不屈の精神で技を習得する

岩淵さんは入社1年目、製品の包装部門に配属された。ある日、手延べ麺部門の包装や出荷を手伝いに行き、そこで見た麺の「巻き」の作業に衝撃を受けたという。

麺をつるして乾燥させる際に、棒に掛かっていた平たい部分を「ふし」と呼ぶが、これを中心に数本の麺をぐるぐると巻いていく。職人たちの目にも留まらぬ手際の良

## 地域の食材と食文化を発信するマルニ食品

### 県産小麦を使用した 半生手延べうどん

麺用小麦新品種の「あおぼの恋」は、麺の粘りや弾力性、滑らかさが強く、色や見た目も優れていると言われています。2009年に宮城県の奨励品種に採用され、登米市は県内トップの生産量を誇ります。同社は、5年の歳月をかけて、この小麦を使った手延べうどんを完成させました。



登米の小麦や気仙沼の桑の実、塩釜の藻塩など県産の原料と、同社に伝わる伝統製法で完成させた半生手延べうどん「青葉の恋」

### 地域に伝わる味 「はっと」「油麩」

登米地域で、古くから伝わる小麦粉を使った郷土料理「はっと」とその具材の一つとして使われることが多い「油麩」。同社では、どちらも商品として取り扱いながら、地元のイベント参加や海外へのPRなどを通じて普及に貢献しています。



登米地域で昔から食べられている「はっと」(上)と「油麩」(下)

### 地産食材の魅力を伝える 直営レストラン

小麦のほかに米や野菜、鶏などの地産食材を使った麺や料理が楽しめる直営レストランを2011年にオープンしました。同社の手延べ麺を最もおいしい形で提供するとともに、地域資源を積極的に活用し、郷土の食文化を発信する同社のアンテナショップ的な役割を担っています。



直営レストラン「麺や文左」。同社のルーツである蕎麦屋のような地域の憩いの場を目指す

## 仕事 図鑑 CASE 01

# 地域食材の味と魅力を伝える 伝統の職人技

製造  
岩淵 由紀さん(22歳)

マルニ食品株式会社(登米市)

## 創業以来受け継がれてきた 手延べ麺の伝統製法を守る

無数につり下げられた麺が織り成すカーテンに、長さ50センチほどの大きな竹箸が差し込まれる。慣れた手つきで箸を上下に動かし、美しい麺のラインを整えていく職人たちの中に混ざり、真剣な面持ちで作業する岩淵由紀さんがいた。

「こうしてくっついた麺を離した後は、室内で翌朝までゆっくり水分を飛ばします。延ばした麺を棒でつるして乾燥させるまでの工程を「門干し」と呼んでいます」。門干しは、その昔、麺を門で干したことに由来する。岩淵さんは、先輩の呼吸に合わせて、再び箸を入れ始めた。

登米市にあるマルニ食品株式会社は、そばやうどん、中華麺など様々な生麺や乾麺を製造している。スーパーやネットショップなどで販売する自社製品をはじめ、大手コンビニエンスストアや県内外の飲食店で取り扱うオーダーメイドの麺も数多く手掛けており、商品は100種類を超える。

岩淵さんが担当する手延べ麺は、蕎麦屋として創業したおよそ130年前から連続と受け継がれてきた、伝統製法によって作られている。

「会社の歴史を背負う責任や、伝統を守る使命を日々感じます。たくさんの方に手延べ独特の食感、手仕事の温かみを感じてほしいと思います」と岩淵さんは話した。



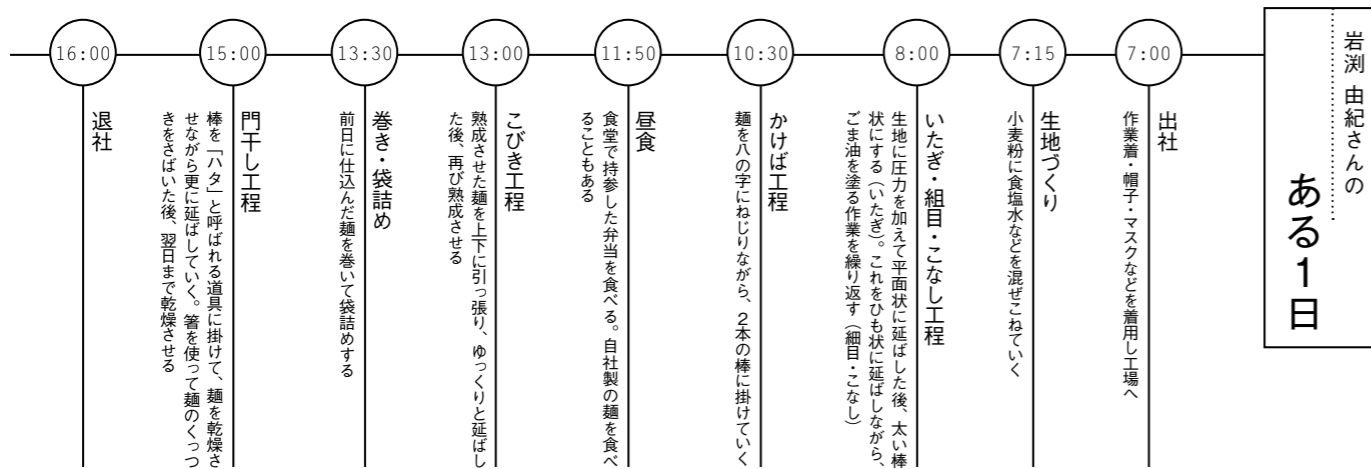
庄延機に着いた粉や生地をきれいに取り除く。機械の掃除や手入れも職人の大切な仕事だ



かけば工程の様子。八の字にヨリを掛けることで、麺が細く長く伸びやすくなるという



小麦粉に水と食塩を加えて機械でこねる。中の状態を確認しながら、こねる時間や水の分量を見極める



岩淵由紀さんの  
ある1日



贈答用に注文を受けた商品を箱詰めする。手延べ麺の包装まで一貫して職人が担当する



麺をパッケージに詰める。美しい巻きが壊れないように、袋詰めも手作業で行う



袋詰めする前に麺を手早く計り分ける。麺の長さから一瞬で重さを見極める必要がある

上司に聞く



製造部 製麺課 課長  
手延べ 包装課  
白石 善浩さん

技の探求を怠らない職人気質に期待  
現場の経験を多方面で発揮してほしい

一見、穏やかそうに見えますが、仕事や味に対する情熱と探求心を内に秘める、職人の資質を十分に持った人材です。  
手延べ麺づくりは、原料の仕込みからギフト包装まで、お客様のものに届ける一切の作業を職人が一貫して行うため、一つの工程にスピードと判断力が求められます。岩淵さんは、まだ発展途上ではありますが、持ち前の根気と機転の良さを武器に、技術に磨きをかけています。会社の伝統技術を守る一人として、更に精進を重ねて成長してくれることを期待しています。  
これからは、職人として培ってきた知識と技を、新商品の開発など多方面で生かしてくれたらうれしいと思っています。そのためには、社内で行われる企画会議や勉強会の場で、自信を持って積極的に自分の考えを発言してほしいですね。

さと、花を思わせるような見事な仕上がりに圧倒された。「不器用な自分にはこんなこと絶対にできない」と思う一方で、「おもしろそう、やってみたいな」と麺を手づくりできる仕事に魅力を感じたという。  
入社して1年が経とうとした頃、上司から手延べ麺部門への異動を打診された。寝耳に水の出来事だったが、せっかくのチャンス逃すまいと、手延べ麺職人の道へ踏み出す決意をした。

「先輩たちのベースについていけず、焦りました。やはり自分には無理な仕事なので、と悩んだ日もありました」  
それでも、「自分で決めたことは、絶対にあきらめない！」と気持ちを奮い立たせた日々の仕事に取り組んだ。  
「少しずつ覚えていけばいいから」と優しく手を差し伸べてくれる先輩たちの後押しを受け、岩淵さんは技を磨いていった。ようやく今では先輩たちのベースについていけるようになったと感じている。

努力が認められ商品開発に参加  
これからも全力で麺づくりに臨む

同社は、手延べの中華麺やパスタなどの新商品を開発し、直営レストランで提供するなど、創業から守る伝統に新しい風を吹き込んでいる。  
パスタによく使われるデュラム小麦と宮城県産小麦「あおばの恋」をブレンドした新しいパスタの商品開発には、岩淵さんも開発チームとして関わった。粉の配合やこねる時間、麺の太さなどを変えながら何度も試作を繰り返して、あおばの恋の特性であるモチっとした食感と、手延べ製法で仕上げたつるつとした食感の両方が楽しめる新感覚のパスタに仕上げた。

「これまでの努力が認められ、会社の新しい事業に参加できたことは、とてもうれしかったです。これからも、たくさんの人に喜ばれるような麺を作っていけるように経験を積みたいです」と笑顔で語る。  
まだまだ、学ぶべきことがたくさんあり、先輩の判断が必要な工程もある。「最初から最後まで一人の力でできるように早くになりたい」と目標に向かって、着実に職人の道を歩んでいる岩淵さん。熱意と真心を込めて作る手延べ麺は、今日も人々のお腹と心を満たしている。



半生手延べうどん「花つるりん」の巻き工程。中央の「ふし」と美しく巻かれた麺が、一輪の花をイメージさせる

仕事図鑑 CASE 01

地域食材の味と魅力を伝える  
伝統の職人技

製造  
岩淵 由紀さん (22歳)  
マルニ食品株式会社 (登米市)



未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス

私は、手延べ麺の仕事をすることが決まった時、不安を感じましたが、「やってみよう」という思いを大切にチャレンジした結果、仕事に誇りとやりがいを感じる事ができました。  
卒業後の仕事を決める時や、就職先で新しい仕事を任せられた時は、とても不安を感じると思います。でも、チャレンジ精神とあきらめない気持ちをもって臨めば、きっとやりがいのある仕事に結びついていくはずですよ。

また、どこか一つの仕事にこだわりの持つことも大切です。私は、苦労して覚えた、麺の巻きの作業を特に心を込めて行っています。麺を手にとったお客様に、手延べの温かみを感じてもらえるように、きれいにかつ素早く麺を巻いています。

## 様々な分野で女性が活躍 明治合成のものづくり

同社では、阿部さんのほかにも多くの女性社員が動き、プラスチック成形品の一貫生産を支えています。

- 1 射出成形機オペレーターと話し合う金型設計者の阿部一美さん。量産化に向けたテストや、不良品が生じた時の対策など、金型設計は製造現場と連携して作業を行う
- 2 組立部門では、いくつもの精密なパーツで構成される部品の組立てを、手作業で迅速かつ丁寧に行っている
- 3 検査部門では、複雑で小さな製品を一つ一つ確認していく。小さな不良も見逃さない眼力が求められる
- 4 配送部門では、微小な部品を計量して袋詰めする。決められた量を手際よく計り分けていく



「プラスチック射出成形業界の花形」と言われる金型部門に所属する阿部さんは、

「オス」「メス」「キャビコア」「入れ子」

同社で唯一の女性金型設計者である。職業能力開発大学校でプログラミングについて学んでいた阿部さんが、今の仕事に就きたいと思うようになったのは、就職活動を控えた2年生の時。たまたま機械系課程の実習場を見かけたことがきっかけだった。「実家がバイク店を営んでいることもあって、幼い頃から整備に使う工具や金属の部品に囲まれて育ちました。そのせいでしようか、実習場を見た瞬間に実家と同じ空気を感ずき、ものづくりの仕事もいとわかったんです」

ものづくりへの興味をかき立てられた阿部さんは、学校で明治合成の求人を見つけると、すぐに先生と一緒に同社を訪ねた。当時の社長の話や工場見学を通して、CA

「オス」「メス」「キャビコア」「入れ子」

「オス」「メス」「キャビコア」「入れ子」

「オス」「メス」「キャビコア」「入れ子」

### 企業情報

明治合成株式会社

所在地 / 大崎市古川桜ノ目字新高谷地 140-5  
TEL 0229-28-4111  
FAX 0229-28-2220  
http://meijigs.co.jp/



代表取締役 / 片瀬 弥生  
資本金 / 2,000万円  
設立 / 1968年8月  
従業員数 / 116人(2017年2月現在)  
事業内容 / 精密プラスチック部品の金型設計製作と成形加工及び塗装・印刷・レーザー加工  
企業理念 / 成形技術と真心でお得意様と郷土の信頼に応える。

複雑な構造になってしまいます。理想の金型に近づけられるのか、設計の細かい修正と試作を重ねて考えます」と阿部さんは話した。

### プログラマ志望からの転向 県内でも珍しい女性金型設計者

同社で唯一の女性金型設計者である。職業能力開発大学校でプログラミングについて学んでいた阿部さんが、今の仕事に就きたいと思うようになったのは、就職活動を控えた2年生の時。たまたま機械系課程の実習場を見かけたことがきっかけだった。「実家がバイク店を営んでいることもあって、幼い頃から整備に使う工具や金属の部品に囲まれて育ちました。そのせいでしようか、実習場を見た瞬間に実家と同じ空気を感ずき、ものづくりの仕事もいとわかったんです」

Dを扱う金型設計のことを知り、「この仕事なら、学校で学んできたコンピュータの知識も生かせるかもしれない」と思ったという。

### 専門用語と原因不明の不具合に困惑 経験豊富な先輩に助けられる

こうして、同社で金型設計者の道を歩み始めた阿部さんだったが、早速、現場の洗礼を受けることになった。

## 仕事 図鑑 CASE 02



# プラスチック成形品の一貫生産で 多様なオーダーに応える

金型設計  
阿部一美さん(31歳)

明治合成株式会社(大崎市)

1000分の1ミリ単位の修正を重ね  
金型設計と試作に挑む

プラスチック射出成形品を製造する明治合成株式会社の工場の一角で、新しい部品の量産化に向けたテストが行われていた。「ここで『バリ』がでやすくなっているから、改善しないといけないなあ」と話しながら、射出成形機オペレーターが金型に指をさした。

バリとは、材料である樹脂を金型に流し込む際に、金型のすき間からはみ出して固まった部分のこと。バリになった部分は一つ一つ手作業で取り除く必要があるため、その分の手間が増えてしまう。さらに、製品の見た目にも影響を及ぼすこともあり、その対策はおそろかにはできない。

オペレーターの説明を静かに聞いていた金型設計者の阿部一美さんは、「わかりました」と小さくうなずくと、金型の設計図を確認するため、自分のデスクに急いだ。

プラスチック射出成形に使う金型の内部には、成形品となる部分以外にも、樹脂を一定の速さで均一に流し込むための通り道や、空気やガスを抜くための穴など様々な構造が組み込まれている。こうした部分のちよつとしたズレでも成形不良を引き起こしてしまうため、精密に設計する必要がある。

「金型のコスト面を考えると構造はシンプルの方がいいのですが、高品質の製品を効率よく量産するためには、どうしても複



知識と直感をフル活用し  
理想の形を思い描く



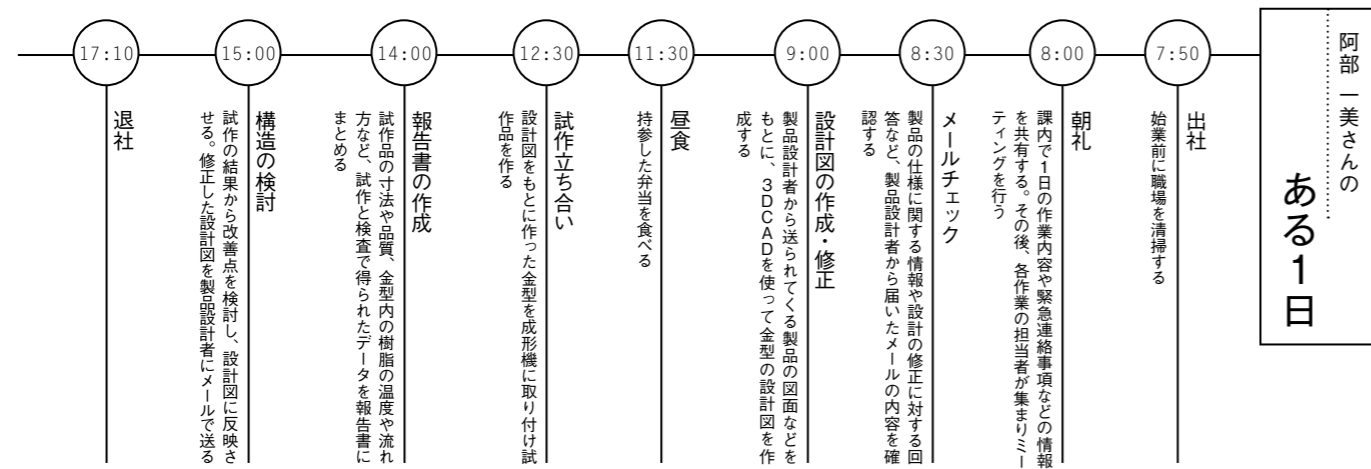
加工した金型を射出成形機にセットして試作する。試作も金型設計者の仕事の一つ



金型は精度が命。金型加工の技術者との打合せは綿密に行う



3DCADを使って金型の設計図を作成する。先輩にアドバイスをもらいながら、理想の形を描いていく



量産が始まる際は、金型設計者も立ち会う。順調に生産される様子を見届け、ようやく安心できる



課のメンバーが集まりミーティング。設計、加工、検査の専門家が知恵を出し合い課題を解決していく



試作品は課内の検査部門でチェックを受ける。仕様と照らし合わせながら、担当者に申し送る

## 上司に聞く



金型課課長 齋藤 茂さん

### 正確な仕事と誠実な対応を評価 これまで培った技能や知識を後輩の指導へ

どんなに忙しいときでも決して手を抜くことはなく、一つ一つ丁寧な仕事ぶりをとても評価しています。こうした姿勢が、ミスやもれの低減につながっているのだと思っています。

最近を取引先から、かなり高度で厳しい要求が出されることがあり、苦しい経験をしてきたとは思いますが、努力を惜しまず乗り越えてくれました。こうした阿部さんの誠実な対応が、製品設計者の信頼を集め、みなさんから可愛がられているのだと感じています。私だけで仕様の打ち合わせに行くと、「今日は阿部さん、来ないんですか?」と気にかけてもらうこともあるんですよ。この10年で金型設計に関する技能や知識を身に付け、ナンバー2の実力まで成長してくれたと思います。今後はキャリアを生かして、後輩や同僚への指導にも積極的に取り組んでほしいですね。

### 細やかな説明で信頼関係を築く 取引先のシビアなニーズに添えていく

設計した金型のデータは、取引先の製品設計者に送り、確認してもらう。複数の設計を同時に行うため、阿部さんは常に何人もの製品設計者とデータをやり取りしている。

「設計者によって考え方やこだわりはそれぞれ。こちらで修正した仕様を柔軟に受け入れてくれるケースもあれば、結論が出るまでに時間がかかることもあります」

阿部さんは、金型の設計や修正の意図をわかりやすく伝えるため、樹脂の流れ方や金型内の温度分布などを丁寧に解析して数値化し、製品設計者に説明している。こうした細やかな対応が、製品設計者との信頼関係の構築につながっている。

近年の工業製品の高性能化や小型化に伴い、プラスチック部品にも精密で複雑な構造が求められる。阿部さんは、取引先から仕様が表示されるたびに、「これは、面白そう! でもちょっと難しいかもしれない」と期待と不安に駆られるという。

「製品として世に出る前のものを、誰よりも早く形にできるのが金型設計の魅力です。これからも、最高の金型を設計して取引先のニーズに添えていきたいです」阿部さんはそう話すと、パソコンのディスプレイに設計図を映し出し、修正に取り掛かった。緊張感に満ちた関わりが再び始まるうとしている。

未来のACEへ  
先輩からのアドバイス

どんな仕事にも、失敗は付きものです。仕事がうまくいった時よりも、失敗した時の方が記憶に残ってしまうので、どうしても引きずってしまいます。そんなときは、気分を切り替えて次の仕事に前向きにチャレンジしましょう。失敗したときの経験や、悔しい気持ちが必要力になると思います。

そう言いながら私自身、気分転換が得意ではありません。そこで、休みの日は外出して、仕事のことを忘れるようにしています。会社では、あまり一人で悩まず上司や先輩に相談すれば、きっと助けてくれると思います。

金型設計は、まだまだ男性が多い分野ですが、女性でも十分やっていける仕事だと思います。将来、女性の金型設計者がどんどん増えて、一緒に業界を盛り上げていけるといいですね。



## 仕事図鑑 CASE 02

### プラスチック成形品の一貫生産で 多様なオーダーに応える

金型設計  
阿部 一美さん (31歳)  
明治合成株式会社 (大崎市)

仕事 図鑑 CASE 03

# 多彩なメニューをそろえ サメの食文化普及に貢献

製品管理  
阿部 佳澄さん (25歳)  
株式会社中華高橋水産 (気仙沼市)

工場生産される製品の  
出荷や在庫の状況を管理する

世界屈指のふかひれ生産地、気仙沼市で地場産業の一翼を担う株式会社中華高橋水産。太平洋を望む小高い丘の上に、同社のふかひれ工場がある。

ある日の昼下がり、敷地内のショールームで、地元の飲食店経営者と話す阿部佳澄さんの姿があった。

「こちらの姿煮は、貴重な尾びれを使用しています。肉厚でも食べごたえのあるおススメの商品です」と真空パックされた製品を手に持ちながら、にこやかにアピールした。



ふかひれを待つお客様にいち早く届けたい

「ショールームには、業者の方のほかにバスツアーのお客様も訪れます。商品やサメについて、いろいろなことを聞かれるので、きちんと答えられるように、日々勉強しています」

同社で製造されるふかひれ製品は、東京の高級中華料理店で取り扱う食材や大手コンビニエンスストアの企画商品、地元の給食や土産品など実に多彩だ。

「使われているサメの種類やひれの部位、大きさや味付けの有無など、製品のバリエーションは1000以上あります。これらを覚えるだけでも大変な仕事です」と阿部さんは話した。

仕事や子育ての先輩から後押しを受け  
確かな仕事で会社の信用を守る

阿部さんは、昨年9月に入社したばかり。接客のほかに、東京の親会社や仙台の営業所などから届く取引先の注文を取りまとめ、製品の配送手配や荷受けの確認などの作業にも奮闘している。その日に工場で作るものや取引先へ配送するもの、冷蔵庫に保管しているものなど、取引先に届くまでの製品の所在を管理する重要な仕事である。

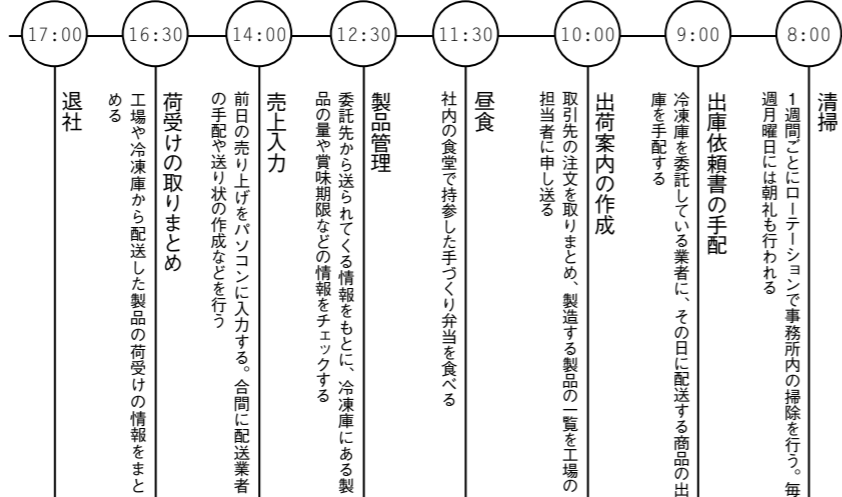
これまで食品メーカーで働くことはもちろん、パソコンを使った事務作業も経験がなかった阿部さんは、毎朝早く出社し、その日の作業の準備や、新たに覚えた仕事の



- 製品の説明をする阿部佳澄さん。自社製品を販売するショールームでの接客も阿部さんの重要な仕事の一つだ
- 工場内で加工されるふかひれ。冬の寒風にさらして天日干しし、約3カ月かけて乾燥・熟成させたサメのひれから、皮や軟骨などを取り除くと美しい繊維が走るふかひれが姿を見せる
- スペイン風のオレンジ色の外観が目立つ、同社のふかひれ工場。スペインは、世界有数のサメの水揚げを誇る



## 阿部佳澄さんのある1日



出荷担当者から出荷案内を申し送る。阿部さんが作成した一覧表をもとに製品が出荷されるため、ミスは許されない



書類の作成や売り上げの入力作業の際のパソコン操作は、先輩に教えてもらいながら習得している



営業所や取引先、配送業者などからの電話を受け、担当者に伝える



同社では、始業前の清掃に力を入れており、社員は事務所や工場を毎日40分かけてきれいに行っている

### 企業情報

株式会社中華高橋水産

所在地 気仙沼市本吉町大谷 87-1  
TEL 0226-44-3032  
FAX 0226-44-3040  
http://www.chutaka.co.jp/  
※株式会社中華・高橋 HP



代表取締役社長 高橋 潤  
資本金 3,000万円  
設立 1991年8月  
従業員数 43人(2016年12月現在)  
事業内容 業務用ふかひれ食材等の加工・販売  
企業理念 一つの時代も環境と調和し、食に感謝できる豊かな社会づくりに貢献します。

復習をしているという。

女性が多く和気あいあいとした職場の雰囲気は、慣れない仕事に対する不安を払拭してくれる。そして、小さな子どもを持つ阿部さんにとって、子育ての大先輩がたくさんいることも大変心強いと思っている。上司や先輩の心遣いに応えるためにも、「一日でも早く会社の役に立てるようにしたい」と意気込む。

入社から半年が経ち、仕事を通して取引先からの会社の厚い信頼を肌で感じた阿部さんは、「自分のミスで信頼を損なうことのないように、お客様が希望する商品を間違いなく届けていきたい」と話す。

いつの日か、「阿部さんだから、お願いしたんです」と取引先から信頼されるような社員になる、という目標を掲げ、今日もひたむきに仕事と向き合う。



## 未来のACEへ 先輩からのアドバイス

私は南三陸町出身で、この会社に入社する前は仙台市内で働いていました。家族や友達が近くにいる地元は、やっぱり落ち着きます。

子どもの頃から名前をよく知っていた会社の求人を見つけ、こうして気仙沼ならではの仕事に就くことができ、きてとてもうれしく思っています。みなさんも地元どんな産業や企業があるのか、興味を持ってみてください。将来の進路選択にプラスになるかもしれません。

私は社内で開かれたセミナーで講師から自分の目標について聞かれ、とっさに「自分にしかできない仕事をしたいです」と答えました。それを突き詰めて、「信頼される社員になる」という今の目標ができました。自分自身で目標を掲げることが大切なこと。社会に出る前から、目標を立ててクリアする習慣をつけておくといいですね。

企業情報

株式会社東京ファッション

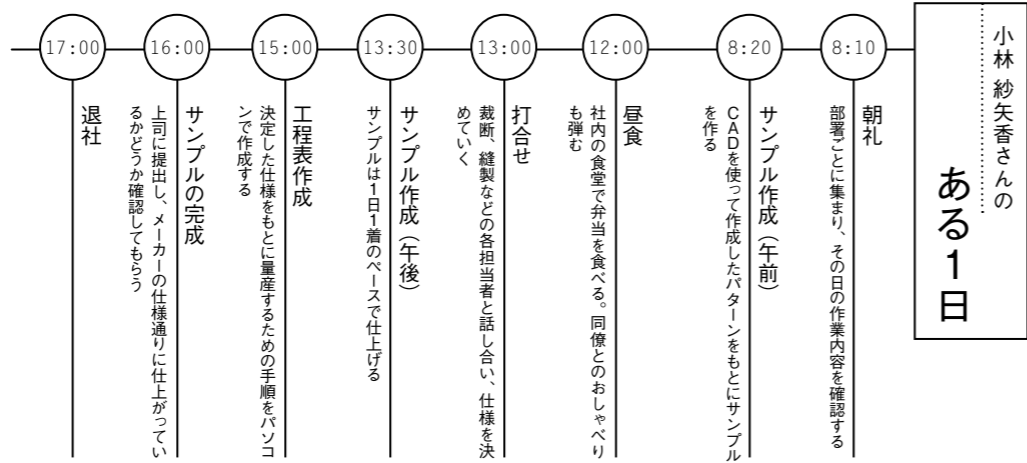
所在地 / 本社：東京都足立区大谷田 3-8-14  
 巨理工場：巨理郡巨理町字裏城戸 22  
 TEL 0223-34-7878  
 FAX 0223-34-7879  
<http://tokyofashion-womens.urdr.weblife.me/>



代表取締役社長 / 綾辺 裕一  
 資本金 / 1,000万円  
 創業 / 1968年3月  
 従業員数 / 60人(巨理工場：2017年2月現在)  
 事業内容 / 婦人服製造・アパレル生産管理システムの開発  
 企業理念 / 個々の技術と感性の可能性を追求し、社員と共に企業の発展を通じ社会への貢献を目指す会社



裁断した生地をミシンで縫い合わせる。ライン作業をイメージしながら、一つ一つ作業を確認していく



アイロンがかけられ、出来上がった量産品の仕上がりを確認する。無事に完成した製品を見届け、ホッとできるという



裁断の担当者や打合せ。技術者のもとに直接出向いて、サンプル作成についてアドバイスを求める場合もある



各工程の担当者の意見も取り入れながら、CADを使ってパターンのデータを作成する



未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス

アパレル業界で働くためには、ファッションセンスが重要だと思われるがちですが、私たちの仕事ではいかに丁寧で正確な仕事ができるかを大切にしています。

縫製ラインでは、ミシンがけやポタン付けなど細かい手作業が繰り返されるため、確認作業を怠らないように注意しています。また、一人一人が力を合わせて一着の服を仕上げるチームワークも必要です。そのため、先輩や同僚とは、日頃からあいさつや会話を交わってコミュニケーションを図ることを心掛けています。

私は、子どもの頃からビーズアクセサリーづくりやフェルト手芸をすることが大好きで、それが今の仕事に結びついたと思っています。みなさんも、好きなことや興味があることを長く続けてみてください。そして、自分に合った素敵な仕事を見つけてほしいと思います。



ひと縫いひと縫い確認し  
おしゃれで心地よい服を形に

衣服のサンプルを作成し  
量産するための仕様を考える

株式会社東京ファッション巨理工場の縫製ラインでは、おそろいのベレー帽をかぶった女性社員が巧みにミシンを操り、生地を縫い合わせていた。そのそばで小林紗矢香さんは、テーパーと呼ばれる型紙を当てるように眺めていた。これから、アパレルメーカーから送られてきた図面をもとに、服のサンプルを一人で仕立てるといふ。製品を作るのと同じ工法でサンプルを作り、縫製や裁断の作業をする人がわかりやすいように縫いしろを調整したり、型紙に

印を追加したりする。ライン作業では難しい仕様が見つければ、メーカーと交渉して問題を解決する。デザインを変えずに、きれいな製品にする方法を考えるのが小林さんの仕事だ。

「ミシンで使う針や糸の種類、生地の縫い方の違いが、見た目の仕上がりに影響しなく、着心地にも大きく影響します。最高の製品に仕上げるため、こちらからメーカーに提案することもあるんです」

97パーセントの製品を海外生産に頼る国内アパレル市場において、同社は国内生産を担う数少ない企業の一つ。国内の有名ブランドを持つメーカーの委託を受け、百貨店で取り扱う衣服を中心に製造している。



1 生地にパターンを当てる小林紗矢香さん。パターンには、パーツの形だけではなく生地の縫い方や加工方法が記載されている  
 2 ライン縫製の作業員から、縫い方の相談を受ける。あらゆる工程を熟知する小林さんは、後輩からの信頼も厚い

多彩なアイテムをカバーする高い生産能力と、高品質・短納期を武器に、商品の切り替えが早い業界のニーズに 대응している。

縫製ラインで技を磨き技術部門へ  
更なる成長に意欲を燃やす

仙台の専門学校でファッションと服飾について学んだ小林さんは、卒業後、同社に入社し縫製ラインに配属された。

「まち針を使わなかったり、初めて見る特殊な縫い方があったり、最初の半年間は戸惑いの毎日でした」と当時を振り返る。縫製やアイロンがけなど、同社の服づくりの技術を一通り経験した小林さんは、入社5年目から技術部門でサンプル作成を任されるようになった。

メーカーの担当者や社内の各作業工程の担当者や打ち合わせを繰り返して、そのたびに初めからサンプルを作り直した。量産

仕事  
図鑑 CASE  
04

国内アパレル産業を支え  
最新トレンドを届ける

技術  
こばやし さやか  
小林 紗矢香さん (27歳)  
株式会社東京ファッション 巨理工場 (巨理町)



# Report 技能士を 技 育てる。

宮城県内の企業には、優れた技術を持つ多様な技能士が活躍する。宮城のものづくりを支える匠たちを、企業がどのように育て、技を伝えているのかを紹介する

栗原市で180年以上前から代々畳業を営んできた有限会社只見工業所。職人たちによって長年培われてきた技能が、脈々と受け継がれている。

「畳業界は職人の後継者不足が深刻です。経験がない人でもすぐに仕事ができるように、14年前からコンピュータ式の機械を導入しました。社員として働いてもらいながら、じっくり時間をかけて職人を育てています」と只見直美社長は話す。

職人歴18年の高橋厚さんは、1級畳製作技能士である現会長のもとで技を学んだ。かつてはすべて手作業だった畳製作も機械

化が進んだが、サイズの微調整など職人の感覚や手作業に頼る部分が多く残されていると話す。

3年前、次男の優さんが「家業の伝統を絶やさぬように、技を受け継ぎたい」と仙台から戻り、畳職人の道を歩み始めた。高橋さんの仕事を手伝いながら、2級技能士の取得を目指している。

「認定職業訓練校で学んでもらうことも考えていますが、業務に支障がでないようタイミングを計っています」と只見社長。技能士取得は、お客様の信頼を得られるとともに職人の自信にもつながると話す。

## 技能士 MEMO

### 畳製作技能士

畳の製作と敷き込みに必要な知識や技能を持つことを証明する資格。検定試験では、手作業による実技試験が行われる。

### 認定職業訓練

都道府県知事の認定を受けて事業主や職業訓練法人等が行う職業訓練。修了者は、技能検定など資格取得の際に試験の一部免除や必要な経験年数の短縮等の優遇措置が得られる場合がある。

- 1 畳に縁(へり)をつける「畳製作技能士」の高橋厚さん。「敷き詰めるとき、すぎ間がないように、畳の厚さや素材によって仕上げる寸法を微妙に変えている」と話す
- 2 曲線を主体とした畳、ミニ畳など、新商品の開発・提案にも取り組む
- 3 落ち着いた雰囲気のお店に入ると、畳を使ったテーブルやイスに目が留まる
- 4 8代目の只見直美社長
- 5 畳表を巻く只見優さん



お客様から預かった古着をリメイクする小島恭子さん

## 伝統を守り 今に伝える 老舗の畳職人

有限会社只見工業所  
(栗原市)

天保7年(1836年)創業。長年営んできた畳業のほか、襖や障子、壁紙など内装も手掛ける。伝統技法を継承しながら、現在の洋風建築にマッチした畳や畳素材を使ったマウスパッドなど、新商品の開発・提案にも力を注いでいる

### ■企業情報

所在地：栗原市若柳字川北片町 54  
TEL：0228-32-3356  
FAX：0228-32-6870  
<http://www.tadami.co.jp/>



主な事業：畳上げ工事、カーテン・ブラインド・ロールスクリーン・クロス・床施工、襖・障子張替え、ミニ畳製造販売  
技能士数：2人(2017年1月現在)  
主な技能職種：畳製作技能士



## 婦人子供服注文仕立職

オーダーに応じて生地やデザインを決定し、一人で服を作る注文仕立師には、採寸や型紙製作、生地の裁断や仮縫いなど、あらゆる作業において高度な技術が要求される。

40年前から洋装店を営む小島恭子さんは、「本来、洋服は使い捨てではなく、流行や好み、年齢の変化に合わせて、何度も仕立て直して一生楽しむものです」と話す。そのため生地を裁断する際は、将来的に直すことを前提に数センチ余裕を残しておくのだという。

「百貨店、美容室、洋服店……。当時は女性が働くといっても、できる職業は限られていました」

小島さんは、手に職をつけることができ、服の道を選んだ。専門学校を卒業後、仙台市内の洋服店に就職し、紳士服づくり

を6年間学んだ。その後、ミシンメーカーに転職し、洋裁教室の講師を3年間務めた後に独立した。

10年ほど前、当時メキシコに住んでいた長女を訪ねた小島さんは、現地の洋服店で売られていたビスチェドレスに魅せられたという。帰国後に独学で製作に打ち込み、体形にフィットしたドレスに仕上げるため、「ポーン」と呼ばれる骨組みを30本前後入れる独自のスタイルを磨いた。

こうした半世紀にわたる洋服づくりの功績が評価され、昨年厚生労働省から「現代の名工」の栄誉を受けた。「洋服づくりはお客様の人生に深く関わるやりがいのある仕事。これからも心を込めて仕立てていきたいですね」と生涯現役を貫く。

※肩ひもがなく、両肩を全て露出し、胸の上で止めるドレスのこと



1.仕立てが終わり、持ち主の来店を待つ洋服 2. 裁ちばさみは紳士服を作っていた頃から使い慣れた大きめのものを愛用している 3. ビスチェドレスにボーンを通して形を整えていく。本来ボーンは、数本入れるのが主流だという

問い合わせ  
小島洋装店

仙台市青葉区台原 6-1-13  
TEL 022-273-3030



金属のガス溶断について学ぶ金属加工科の学生(右)と、ボール盤の基本操作について学ぶ木工科の学生(上)



石巻高等技術専門校



有線ネットワークシステムについて学ぶ通信システムエンジニア科の学生(右)と、アプリケーション開発について学ぶプログラムエンジニア科の学生(上)



白石高等技術専門校

# こんな人材を育てている

高度化された電気通信システムに幅広く対応できる技能者を育成

「通信システムエンジニア科」では、有線ネットワークシステムの構築や、無線リーダーの操作、通信機器の接続など、情報通信分野における有線・無線に対応した技術操作・メンテナンスに必要な知識・技能について2年間学びます。

本校は、総務省から「第一級陸上特殊無線技士」の養成施設の認定を受けており、修了と同時に同資格を取得することができ、また、電気通信工事・情報配線施工・電気工事に必要な資格取得も目指し、業界の多様なニーズに応える人材を育成します。通信インフラは、日々進化する情報社会において必要不可欠であり、通信工事業界は常に新しい人材を求めています。こうした背景もあって、ここ数年、同科の就職内定率は100%を誇り、夏過ぎにはほとんどの学生の就職先が決まります。

ソフトウェア開発に関する知識技能を総合的に学ぶカリキュラム

「プログラムエンジニア科」では、ソフトウェア開発を担うプログラマやシステムエンジニア(SE)の育成を行っています。

溶接・機械加工・板金の技能を学び地域産業を支える人材を育成

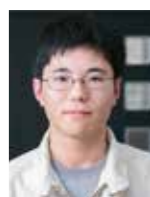
「金属加工科」では、機械加工、溶接技能、板金加工といったものづくりの一般的な知識・技能を1年間かけて習得します。各種工作機械・手仕上げ工具を用いた簡単な産業用機械部品の製作や、各種溶接や板金、塗装、仕上げの作業について訓練を行います。

金属加工技術は、小型電子部品や自動車、鋼橋など様々なものづくりに応用されています。特に溶接技術は、地元製造業のニーズが高く、同科では溶接の技能訓練に力を入れています。まず、在学中に「JIS溶接技能者適格性証明書」や「ガス溶接技能講習修了証」などの各種資格の取得を目指します。さらに、黄綬褒章を受章した地元の熟練技能者を招いた技術指導や宮城県溶接技術競技大会への参加を通じて、学生は技術を磨いています。

また、就職への心構えや社会人としての基本マナーを学ぶため、外部講師によるセミナーや、企業訪問への個別対応など学生の就職支援も行い、2年連続で就職内定率100%の実績をあげています。

「木工科」では、家具・建具などの設計・加工・取付けまで作業ができる職人を養成しています。

通信システムエンジニア科 2年 阿部 哲次さん



東日本大震災で、電話やメールなどが使えなくなり、不便な経験をしたことがきっかけで、情報通信の仕事に興味を持ちました。授業は初心者のものでわかりやすく、情報通信やプログラミングの勉強や、基盤のはんだ付けの実習など様々なことを学んで、幅広い知識や技術を身に付けることができました。

情報理論の基礎やコンピュータの構造をはじめ、ソフトウェア開発には欠かせないプログラミング言語などについて学び、様々な国家資格や民間資格の取得を目指します。実習では、データベースやネットワークなどを扱う技術も同時に身につけ、プログラマと連携させることによって情報技術の総合力を高めています。また、同科ではプログラミング言語やソフトウェアのマニュアルに使われる英語に対応できるように、カリキュラムの中に英語の学習も取り入れています。2年間の課程を修了した学生のほとんどが、ソフトウェア開発企業や企業の情報処理部門などに就職し、活躍しています。

どちらの科も、情報通信工事業界やIT業界で働いていたスペシャリストが指導にあたり、学生は現場で求められる最新の知識や技能を身に付けることができます。

金属加工科 1年 綾部 喜記さん



地元でもものづくりの仕事に就くために有利だと聞き入学しました。機械や設備、作業中の激しい音や光に驚き、最初はできるかどうか不安でした。しかし、実習では自分が上達していく様子を実感でき、楽しく学ぶことができました。就職先では溶接の仕事をすることになるので、ここで学んだことをもっと伸ばしていきたいです。

「のこぎり」や「かん」などの基本的な取り扱いや手入れの方法を覚えた後、継手や仕口などの基本的な工法について学んでいきます。手工具の取り扱いを一通り訓練した後は、ルーターやボール盤などの木工機械の操作や調整の方法について学び、引き出しや開き戸などの製作を通じて家具・建具の基本構造を理解していきます。

さらに家具・建具を製作する一連の流れを理解するため、設計や塗装についても訓練を行います。

1年課程の同科を修了すると、国家検定資格である「2級家具技能士」や「2級建具製作技能士」の学科試験が免除され、受験に必要な経験年数(2年)も不要になります。そして、ほとんどの修了生が、木工製作所などに就職し活躍しています。

本校では毎年2月に「技能ふれあい祭り」を開催し、学生が製作した木工家具や金属製品の展示販売を行っています。自分が作った物が売れる喜びを直接感じ、ものづくりのやりがいを感じ、醸成する良い機会となっています。

プログラムエンジニア科 2年 千葉 澄音さん



高校生になって、スマートフォンを買ってもらい、コンピュータやアプリケーションに興味を持ちました。そして、将来はプログラマになりたいと思い、高校を卒業後、この学校に入学しました。実習では、スマートフォンのアプリ開発の実習があり、日常で使われているようなアプリを楽しみながら作ることができました。

プログラムエンジニア科 修了生 (平成27年度) 株式会社エス・エヌ・テクノロジー 阿部 玲皇さん



工業高校で建築について学んでいましたが、在学中にITによるものづくりに興味を持ち、システム開発関連の企業への就職に必要な知識を学ぶため、入学しました。授業では、プログラミングの基本的なほか、民間企業で仕事をしてきた先生から現場の体験談を聞くことができ、就職してからとても役に立っています。



**白石高等技術専門校**  
2001年に開校。現在、通信システムエンジニア科とプログラムエンジニア科の2学科を設置している。情報化時代を担う人材育成を目指し、高度なデジタル通信技術や情報処理などの情報の知識や技能習得のための訓練を実施している

所在地  
白石市白川津田字新寺前 5-1  
TEL 0224-35-1511  
FAX 0224-27-2110  
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/srkogsn/



木工科 1年 平 侑弥さん



木の温もりや香りが大好きだった私は、ラジオで学校のことを聞いた父親の勧めもあり、ここで本格的に木工を学ぶことにしました。道具の手入れや調整、手加工や機械加工など、正確さが求められる場面が多く最初は苦戦しましたが、少しずつ技能が身に付き、今では自分の思うような加工ができるようになりました。

金属加工科修了生 (平成27年度) 株式会社 ヤマニシ 安倍 琢馬さん



学校で学んだ技術を生かし、地元の造船会社で、船内の手すりや階段などの装備品を溶接する仕事をしています。今の仕事は、職場の先輩やほかの業者の人と一緒に仕事をすることが多いので、学校で仲間と協力して技を磨きながら培ったコミュニケーション力が、とても役立っています。



**石巻高等技術専門校**  
1943年に「石巻造船技術補導所」として開校。1964年、現在地に移転し、訓練科目の改廃や新設を行い、「石巻高等技術専門校」に名称を変更する。現在、金属加工科、木工科、自動車整備科の3学科を設置。各産業に必要な技能者を養成している

所在地  
石巻市門脇字青葉西 27-1  
TEL 0225-22-1719  
FAX 0225-94-7399  
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/is-kougi/



# あすを拓く

漁業の町女川で、ギター産業を興す――。  
 仕掛け人は、大手楽器店に勤めた元セールスマン。  
 東北で生まれた新素材と伝統技術を取り入れた  
 斬新なエレキギターが、この春デビューする。



株式会社セッションナブル

代表取締役  
 梶屋 陽介さん

**プロフィール**  
 1983年鹿児島県出身。大学進学のため上京し、卒業後は東京・御茶ノ水の大手楽器小売店でギター販売に従事する。東日本大震災を契機に東北での楽器、音楽に関わる支援活動始める。2014年楽器店を退職し、国産ギター製造事業を立ち上げるため宮城県に移住する。現在は女川町在住



自社オリジナルのエレキギター「ソード」。第一弾モデルとなる同製品は「音と表現の革新」をコンセプトに開発され、梶屋さんの音と国産ギターへのこだわりが詰まっている

2016年12月、女川町で新しいエレキギターの1号機が披露された。国内の材料と技術を集めた独創的なデザインが光るギターは、日本刀（sword）のような鋭さと木（wood）の温もりにちなんで「ソード（SWORD）」と命名された。「これまでにない革新的なギターを作るため、素材にも音質にもこだわり抜きました。圧倒的なクオリティをもってユーザーの心をつかみたいと思っています」そう語るのは、ギターを手掛けた株式会社セッションナブルの梶屋陽介さん。鹿児島県種子島出身で、2年前に女川町でギター製造事業を立ち上げた。「まさか東北の女川でギターを作るとは思ってもいざせんでしたが、ここで始めたからこそ、こんなに早く事業を進めることができました」と梶屋さんは話す。

「世界最高峰の工業デザイナーとして尊敬していたこともあって、最初から決めていました。山形県出身の方だったことは、偶然だったんです」

こうして東北に縁のある素材や技術、人々の力によって、アイデアを形にすることができたことに不思議な縁を感じている。この春の本格的な出荷を目前に迎え、工房にはすでに注文の予約が入っているという。それでも梶屋さんは冷静に話した。

「本当の地域貢献は、ギターの生産が軌道に乗ってからです」

※現在の岩手県大船渡市から宮城県気仙沼市までの沿岸部一帯に住む、優れた技能を持った大工集団



「仙台のショップと女川の工房にて、製造から販売まで一貫して自社で行う」と話す



音の響きを左右する本体の木材には北海道産材を選定  
 職人が一つ一つ丁寧にギター製作に打ち込む  
 やすり掛けをして仕上げた本体には、ネックや弦などのパーツが取り付けられる

## 均一化が進むエレキギター市場 震災を機に被災地での起業を決意

「エレキギターは、70年近くほぼ同じデザインと構造で作られてきました。このような工業製品は珍しいと思います」

そう感じるようになったのは、東京の大手楽器店で働いていた頃だった。多い時は月100本以上のギターを売っていた梶屋さんは、生産者から「ギターは儲からない」という声を耳にしてきたという。

「今のエレキギターはコモディティ化※が進み、安さが重視される。価格競争に陥らないような、新たな価値を生み出すギターを作ることはできないのだろうか。そう思うようになったのです」

## 女川で町民と意気投合 ギター工房立ち上げに向け突き進む

2014年春に知人の紹介で女川町を訪れた梶屋さんは、町長や役場の職員、観光協会や商工会のメンバーたちの前で事業プランを説明した。「おもしろい。やろう！」とその場で提案を受け入れた町の人々は、再建を計画していた駅前商店街の一角に工房の場所まで確保してくれた。

「みなさんの心意気と女川を復興させるという気概に満ちた姿を見て、迷わずここで事業をすることを決めました」と梶屋さんは振り返る。

製造から販売まで、一貫して自社で行う事業モデルを実行する上で、「まずは販路を確立させる方が先だ」と考えた梶屋さんは、県内の金融機関や財団を駆け回り、およそ半年かけて資金を調達すると、その年

の11月、仙台市内にギターショップをオープンした。販売の傍らで、県内を中心に高校や大学を訪問し、軽音楽部が所有するギターやベースを無償でメンテナンスした。「若者が音楽に打ち込める環境づくりに向けて」という思いで取り組みました。プロの目から見れば壊れている状態のまま楽器が扱われているケースが多いことに驚きました」

こうした地道な活動が実り、ギターショップが徐々に認知されると、梶屋さんは、自社ブランドのエレキギター開発に着手した。女川町の人たちが確保してくれていた場所に工房を作り、全国から3人の若手職人を採用した。

## 東北の素材と技術でアイデアを形に 生産を軌道に乗せ地域貢献を目指す

「被災地の復興という情緒的な付加価値だけに頼っては、長く売れるギターは作れない」と起業を決めた当初から思っていた梶屋さんは、自分が思い描くギターを形にするため、全国の素材や技術を探った。

通常はボルトを使用する本体とネックの接合には、釘などを使わない気仙大工※に伝わる木組み技法を取り入れ、一体感を演出した。「テールピース」と呼ばれる弦の留め具には、音の伸びと厚みを求め、岩手県釜石市の企業が開発した特殊なコバルト合金を採用した。そして、ギターのデザインは、高級車「フェラーリ」を手掛けたデザイナーに依頼した。

## 株式会社セッションナブル

2014年11月に仙台市青葉区一番町に国産ギター専門店「GLIDE STORE」をオープン。16年2月には、女川町でエレキギターの製造工場が完成した。国産の魅力あふれるオリジナルギターを武器に、世界市場を視野に事業を展開する。2017年「SENDAI for startups! ビジネスグランプリ大賞」受賞

■所在地  
 仙台市青葉区一番町 2-7-3  
 TEL 022-393-4540  
<http://glide-guitar.jp/>



### プロから学んだ技術と成果を糧に 平成28年度みやぎクラフトマン21事業 成果報告会

宮城県内の工業系高校と企業が連携し、ものづくり人材の育成に取り組む「みやぎクラフトマン21事業」の成果報告会が1月20日、東北歴史博物館(多賀城市)で行われた。

同事業は、本年度で10回目を迎え、報告会には、高校生と企業関係者ら100人以上が参加し、村田高等学校や気仙沼市立高等学校など14校の生徒が、本年度に企業や熟練技能者の支援を受けて習得した知識や技能について報告した。

石巻工業高等学校からは、化学技術科の生徒が、高校生ものづくりコンテスト県大会に向け、分析技術者から水の硬度測定技術指導を受けた取組について発表があった。コンテスト本番と同様の手順で作業を行い、技術者から作業中の注意点や改善点について指導を受けた。



アーク溶接の技術講習について発表する第二工業高校の生徒



資格取得による職業意識の向上について発表する白石工業高校の生徒

### 高校生が熱い火花を散らす 第6回宮城県高校生溶接技術競技大会



競技材に丁寧にやすり掛けをし、開先の加工を行う参加者



審査員が立ち合う中、アーク溶接の競技に挑む参加者



審査員を務めた熟練技術者が、一人一人の作品について講評とアドバイスをした

1月21日、ポリテクセンター宮城名取実習場(名取市)において、第6回宮城県高校生溶接技術競技大会(主催一般社団法人宮城県溶接協会)が開催された。県内の工業系高校12校の35人の生徒が参加し技を競った。

審査では、アーク溶接の基本的な工法の一つ「V形突き合せ溶接」の競技課題に挑戦。制限時間内に、溶接を行う競技材の間に設ける開先の加工と溶接作業を行った。

### 最新型エンジンに興奮 仙台高等技術専門校「教材用エンジン」受領式

1月26日、仙台高等技術専門校で、日野自動車株式会社(東京都)と宮城日野自動車(仙台市)から寄贈された最新型エンジンの受領式が行われた。

贈られたのは、2トントラック「日野デュートロ」に搭載されているディーゼルエンジンで、同校の自動車整備科の教材として活用される。日野自動車営業部長は「自動車の電子化が進み、メカニックにはより高度な知識と技術が求められる。最新のエンジンを活用して、みなさんの学習に役立ててほしい」と話した。



受領式で学生に向けてエールを送る築山室長



学生にエンジンの説明をする只野部長(中央)

受領式後、宮城日野自動車の只野勝弘サービスマン部長からエンジンの説明があり、学生は新しいエンジンを間近で見ながら、仕組みなどについて質問した。

学生を代表し、感謝の言葉を述べた自動車整備科2年の佐藤尽さんは「実際のエンジンは、想像以上に大きく、今まで見たことがないような最新技術が満載で感動しました。仕組みをしっかりと

### 県内の優れた工業製品6件が新たに認定 第9回みやぎ優れMONO認定式

1月27日、「第9回みやぎ優れMONO認定式」が仙台国際センター(仙台市)で行われた。今回で3製品目の認定となる株式会社プラモール精工(富谷市)など6社の製品が認定され、2009年からスタートしたみやぎ優れMONOの認定は合計47件、43社となった。

有限会社東北工芸製作所(仙台市)は、産業技術総合研究所東北センター(仙台市)との共同による「ナノコンポジットコーティングを付与した高耐久性漆器玉虫塗」で初めて認定された。擦過性、耐候性などを向上させるナノコンポジット技術を応用し、従来の「見て楽しむ漆器」から食洗機にも対応可能な「使っても楽しむ漆器」を実現した。



高耐久性玉虫塗のワイングラスは、G7財務省・中央銀行総裁会議の記念品として採用された



みやぎ優れMONO認定証を受けた6社の代表

目指す企業は大学や研究機関を積極的に活用し、また既に認定を受けた企業も是非、複数の認定獲得に向けて挑戦を続けてほしい」とエールを送った。

### 東北職業能力開発大学校の学生が ものづくり教育訓練の成果を発表 第15回東北ポリテックビジョン

2月17日と18日、東北職業能力開発大学校(栗原市)で「第15回東北ポリテックビジョン」が開催された。17日に行われた講演会では、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)角田宇宙センターの吉田誠所長が、「ロケット開発：最先端の物づくり」と題し、ロケットの打ち上げの様子や「H-IIロケット」のエンジン開発の裏側などについて、映像を交えながら詳しく紹介した。

さらに、同センターで開発が進められている「H3ロケット」に搭載する新しいロケットエンジンの開発や、国内ベンチャー企業が計画している宇宙事業などについても触れた。吉田所長は、「ロケット開発には、モチベーションを長く保ち

### 卒業前の内定獲得を目指す 新規高等学校卒業生第2回就職面接会

2月16日、「新規高等学校卒業生第2回就職面接会」が、AER(仙台市)で開催された。今年3月に県内の高校を卒業する生徒が対象で、23人の高校生と県内企業など38社が参加した。生徒は、参加企業の採用担当者から自社PRを聞いた後に、興味を持った企業のブースで予備面接を受けた。この日に面接を受けた数社の中から、就職を希望する企業を検討し、後日あらためて本面接に応募する。



90秒間のPRタイムで会社の特色を説明する、採用担当者



就職面接会は和やかな雰囲気で行われ、生徒と企業が互いに意見を交わした

面接会に参加した電気設備工事会社の採用担当者は、「業界は、常に人手不足が続いている。今日の面接会で電気工事に興味がある若い人材を確保し、ゆつくりと育てていきたいです」と話した。

同面接会は、宮城労働局ハローワーク、宮城県、仙台市が主催。ハローワーク仙台の担当者は、「一人でも多くの生徒が就職を決め、安心して高校卒業を迎えられるように全力で支援していきたいです」と話した。



講演する吉田所長。最先端の技術が詰まったロケットエンジン開発の魅力を紹介した



地元の給食センターの声をもとに開発した「自動リング加工機II」。ターンテーブルに載せられたリングの皮をむき、6つにカットする